

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
YICビジネスアート専門学校		平成1年8月24日		中川 達也		〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8354			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人YIC学院		平成13年10月11日		井本 浩二		〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8354			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	ITエンジニア学科				商業実務専門課程 平成26年1月28日文科科学省 告示第6号	平成〇年文科科学省 告示第〇号		
学科の目的	コンピュータの技術を学び、Webプログラム、ビジネスシステムなどに適応できるスペシャリストを育成し、経済産業省主催の情報処理技術者試験や各主催ベンダー資格の取得を目指します。								
認定年月日	平成27年2月25日								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
	2年	1890時間	660時間	1200時間	30時間		単位時間		
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)		専任教員数	兼任教員数	総教員数			
40人	15	2		4人	5人	9人			
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～翌年3月31日				成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 【学生便覧 学習の手引き 5. 成績評価】 ①成績評価は、試験のほか確認テスト、模擬テスト、レポート、出席状況、授業態度により総合的に評価する。 ②評価結果は、秀、優、良、可、不可の5段階とし、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とする。 判定評価点成績GP成績評価内容 合格100～90点秀4到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている 89～80点優3到達目標を十分に達成している 79～70点良2到達目標を達成している 69～60点可1到達目標を最低限達成している 不合格59点以下不0到達目標を達成していない 未履修一各科目について欠課が授業時数の1/3を超えるもの ※GPAの対象としない ③評価結果が不可の者に対し再試験を実施することがある。再試験実施後、試験の結果の代わりに再試験の結果を用いて評価をやりなおす。ただし、秀、優、良相当の成績であっても評価結果は可とする。 ④年度末に通年の評価結果の一覧を成績表として、保護者（保証人）に送付する。 ⑤卒業年次生は、就職活動に際し成績証明書が必要な場合がある。そのため、申請のあった者については各期末終了日前に、受講中の教科科目について中間評価を行う。その際、確認テストや模擬テスト、レポート、出席状況等をもとに評価を行う。			
長期休み	■学年始め：4月1日～4月7日 ■夏季：8月1日～8月31日 ■冬季：12月17日～翌1月7日 ■学年末：3月21日～3月31日				卒業・進級条件	【学生便覧 学習の手引き 7. 進級・卒業】 ①進級要件 年度末において次の要件のすべてを満たしていること。 a. 各学科の定める当該年次の教科科目のうち、必修科目、選択必修科目の成績評価が すべて可以上であり、進級必要単位数を修得している。 b. 当該年次の学費、教材費等が納められていること。 ②卒業要件 卒業年次の年度末において次の要件のすべてを満たしていること。 a. 各学科の定める教科科目のうち、必修科目、選択必修科目の成績評価が すべて可以上であり、卒業必要単位数を修得している。 b. 全ての学費、教材費等が納められていること。			

学修支援等	<p>■クラス担任制： 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応 (出席状況不良者への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任は原則として1か月ごとに担当学年の出席状況を確認する。 ・担任は科目の出席率が8割を満たさない者は、学生と面談を行い、その結果を学科責任者及び職員会議で報告する。必要に応じて学生指導及び保護者連絡を行う。 (長期欠席者への対応) ・上記の対応に加え、欠席が長期に渡る者については、電話連絡を密にし、必要に応じて学生及び保護者を召喚し、面談を行う。 ・学生及び保護者への対応を行った時は、その内容を学生個人記録に記録する。 	<p>■課外活動の種類</p> <p>学生会（学生自治組織・学園祭の実行委員会等を行う）</p> <p>■サークル活動： 無</p>																																			
就職等の状況※2	<p>■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生)</p> <p>東京コンピュータサービス(株)、(株)ユニットコム、(株)山口情報処理サービスセンター、(株)Y Kプランニング</p> <p>■就職指導内容</p> <p>IT企業による業界講和、企業説明実施し、業界の理解を深める。業界企業へのインターンシップ実施</p> <table border="1" data-bbox="252 582 790 683"> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>3</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>1</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>1</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>■卒業者に占める就職者の割合</p> <table border="1" data-bbox="252 694 790 739"> <tr> <td></td> <td>33.3</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学者数：大学進学2人 <p>(平成30年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)</p>	■卒業生数	3	人	■就職希望者数	1	人	■就職者数	1	人	■就職率	100	%		33.3	%	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する平成31年5月1日時点の情報)</p> <table border="1" data-bbox="973 492 1476 660"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。</p> <p>①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの</p> <p>②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの</p> <p>③その他（民間検定等）</p> <p>■自由記述欄</p>	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	情報セキュリティマネジメント試験	③	2人	0人												
■卒業生数	3	人																																			
■就職希望者数	1	人																																			
■就職者数	1	人																																			
■就職率	100	%																																			
	33.3	%																																			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																		
情報セキュリティマネジメント試験	③	2人	0人																																		
中途退学の現状	<p>■中途退学者 0 名 ■中退率 0 %</p> <p>平成30年4月1日時点において、在学者12名（平成30年4月1日入学者を含む） 平成31年3月31日時点において、在学者12名（平成31年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年の年初にQU（楽しい学校生活を送るためのアンケート）実施 ・クラス担任による定期的な面談 																																				
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>指定校推薦奨学生制度（授業料5万円減免）、自己推薦奨学生制度（授業料3万円減免）、社会人特待生制度（授業料5万円減免）、Y I C特別就学支援制度（授業料20万円減免）、進級時成績優秀者奨学生制度（1～10万円給付）、Y I Cファミリーサポート（授業料5万円減免）、Y I C卒業生授業料サポート（授業料10万円減免）、Y I C入学選考料サポート（入学選考料減免）、遠距離サポート（毎月3千円支給）、ひとりぐらしサポート（毎月0.5～1万円支給）</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p> <p>前年度の給付実績者数 0名</p>																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>																																				
当該学科のホームページURL	<p>http://www.yic.ac.jp/ba/course/it/</p>																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

- ・学科の専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会（教育課程編成委員会）を置く。
- ・審議事項は次の事項とする：カリキュラムの企画・運営・評価、各授業科目の内容・方法の充実及び改善、教科書・教材の選定、教員研修。
- ・委員会には学校関係者のほか、専攻分野に関する企業等の役員または有識者を1人以上加えることとし、企業等との連携を密にする。（以上 学校法人Y I C学院 教育課程編成委員会規則 より抜粋）

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

- ・「学校法人Y I C学院は、設置する専門学校各校の各学科に、専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。」（学校法人 Y I C学院 教育課程編成委員会規程第2条より）
- ・カリキュラムは、教育課程編成委員会の意見等を参考に、学内教育課程編成委員会において編成する。教職員会議での検討を経た後、理事会の承認を受け最終決定。
- ・授業内容・方法の改善・工夫等については、教育課程編成委員会の意見を参考に、可及的速やかに対応する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年6月17日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
頃安 隆司	キャスト株式会社 代表取締役	平成30(2018)年4月1日 ~平成32(2020)年3月31日	③
富田 祥司	株式会社ピージーシステム 人事総務部 部長	2019年4月1日 ~2021年3月31日	③
松浦 好宏	株式会社宇部情報システム 戦略推進部 部長	2019年4月1日 ~2021年3月31日	③
掛川 俊一	一般社団法人 山口県情報産業協会 専務理事・事務局長	平成30(2018)年4月1日 ~平成32(2020)年3月31日	①
明德 義和	宇部市総合戦略局 ICT・地域イノベーション推進グループ グループリーダー	平成30(2018)年4月1日 ~平成32(2020)年3月31日	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回、1回目は6月~8月、2回目は2月~3月

(開催日時)

第1回 令和元年6月17日 13:30~15:00

第2回 令和2年2月を予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・IoT教育を推進するにあたりドローンについての基礎講座を実施。
- ・Yahooショッピングサイト立ち上げ、地場産業の商材をネット販売を実践など

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・山口県内の、学生の住居近くの施設を選定している。
- ・学生の興味分野や就職希望分野（進路）も踏まえ、実習指導者との連携がとれる施設を選定している。
- ・指導者の監督の下、見学・実習を行い職業理解に努める。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ・実習、演習においては企業間と「講師派遣契約書」、科目について「覚書」を交わしている。
- ・実習・演習の方法・成績評価の方法について実習指導者・教員・学生間で共有している。
- ・実習期間中は教員が電話あるいは訪問して状況確認を行い、問題があれば対応について協議する。実習指導者が記入する成績

評価表と、実習終了後に行う報告会での報告内容を踏まえ、教員が最終成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップI	職業意識を涵養し、礼儀作法、社会性を身につける。	株式会社フォー・クオリア 株式会社ニュージャパンレッジ
卒業研究	地場産業の連携し各種商材を、yahooショッピングサイトに実践販売するためのEコマース	ヤフー株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
(教員の研修等の基本方針)

- ・YICグループ教職員研修規程に基づき計画的に研修を実施している。
- ・常に変化する業界動向に合わせて、技術・知識の確認をするために、企業企画・イベントの参加を推奨している。
- ・資格取得のための研修を推奨している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「YIC教職員研修(夏季)」「情報セキュリティ研修」(連携企業等:学校法人YIC学院)

期間:8月21日(月) 対象:教員

内容:最新のセキュリティインシデント、セキュリティ対策技術について

研修名「専修学校フォーラム」(連携企業等:一般社団法人全国専門学校情報教育協会)

期間:2月8日(木)~2月9日(金) 対象:教員

内容:「教育×AI」をテーマとした基調講演、パネルディスカッション、文部科学省プロジェクトの成果報告 等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「YIC新人研修」(連携企業等:学校法人YIC学院)

期間:3月27日(月)~3月28日(火) 対象:教員

内容:基本教授技法、板書・話法・目線・機器使用法等、コマシラバス、アクティブラーニング、インストラクショナル・デザイン

研修名「教員及び准教員研修会」(連携企業等:一般社団法人職業教育・キャリア教育財団)

期間:11月25日(土)~11月26日(日) 対象:教員

内容:教育入門、教育技術入門、教師論入門、青年心理、教育制度入門、職業教育入門

研修名「YIC教員研修(夏季)」(連携企業等:学校法人YIC学院)

期間:8月9日(水) 対象:教員

内容:アンガーマネジメント、AI授業、ビジネスマナー、ID授業

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「AI(人工知能)・機械学習の活用技術研修会」(連携企業等:一般社団法人全国専門学校情報教育協会、株式会社トップゲート)

期間:8月23日(木)~8月24日(金) 対象:情報教員

内容:AI(人工知能)・機械学習に関する基本的な知識及び利用方法の理解。AI(人工知能)・機械学習を活用した業務展開の企画と実践のスキルの習得。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ICT活用による教員の教育力向上研修会」(連携企業等:一般社団法人 全国専門学校教育研究会 デジタルハリウッド大学)

期間:8月2日(木)~8月3日(金)、2月 対象:情報教員

内容:教育分野におけるエドテックイノベーションによる教育改革。デジタルツールを活用した効率的展開について具体事例研究と、デジタルツールを用いたファシリテートや評価方法のスキルを習得。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・学校関係者評価委員会において、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめ報告書を作成していただく。
- ・学校関係者評価委員会からの報告書に基づいて本校の自己点検評価を見直し、次年度の改善計画における重点項目を決定する。これらについて年報・ホームページ等で公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3) 教育活動	2 教育の内容
(4) 学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	3 教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	5 学生支援
(8) 財務	8 財務

(9)法令等の遵守	7 管理運営
(10)社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・本校で実施した自己点検評価・改善計画を学校関係者評価委員会に提出し、意見・協議結果をもとに学校機能評価報告をまとめ、年報・ホームページで公開する。改善計画にもとづき学校運営や教育の改善を計画的に行う。
またシラバスがテキストの目次に基づくものが多く、具体性がない。
今後、シラバス・コマシラバスの整備をインストラクショナル・デザインを取り入れて改善していくことに決定した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年6月25日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
溝部 直子	国際ホテル・ブライダル学科 在校生 保護者	2019年4月1日~2021年3月31日	保護者代表
水津 敬太	パティシエ学科 卒業生	2019年4月1日~2021年3月31日 (旧:平成29年4月1日~平成31年)	卒業生
頃安 隆司	キャスト株式会社 代表取締役	平成30(2018)年4月1日 ~平成32(2020)年3月31日	企業関係者 (ITエンジニ
重村 奈津枝	山口商工会議所 中小企業相談所長	2019年4月1日~2021年3月31日	職能団体 (Webビジネ
古谷 雅之	株式会社 山口グランドホテル 常務取締役総支配人	2019年4月1日~2021年3月31日 (旧:平成29年4月1日~平成31年)	企業関係者 (国際ホテ
天津 昇次	社団法人 山口県病院協会 事務局長	2019年4月1日~2021年3月31日 (旧:平成29年4月1日~平成31年)	企業関係者 (医療事務学
兼重 顕治	医療法人 協愛会 阿知須共立病院 事務部経営企画室人材開発グループリーダー	2019年4月1日~2021年3月31日 (旧:平成29年4月1日~平成31年)	企業関係者 (医療事務学
中川 徳弘	和洋菓子 なかがわ	平成30(2018)年4月1日 ~平成32(2020)年3月31日	企業関係者 (パティシエ
中野 園子	山口県獣医師会の会員獣医師 なかの動物病院 副院長	2019年4月1日~2021年3月31日 (旧:平成29年4月1日~平成31年)	企業関係者 (ペット総合
田邊 元久	学校法人三田尻学園 誠英高等学校 教頭	2019年4月1日~2021年3月31日 (旧:平成29年4月1日~平成31年)	高校関係者
岡村 昭男	学校法人鴻城義塾 山口県鴻城高等学校 教員	2019年4月1日~2021年3月31日 (旧:平成29年4月1日~平成31年)	高校関係者
中川 達也	Y I C ビジネスアート専門学校 校長		学校代表者
河津 道正	Y I C ビジネスアート専門学校 副校長		学校機能評価 委員
飯田 直樹	Y I C ビジネスアート専門学校 事務長		学校機能評価 委員
福本 一雅	Y I C ビジネスアート専門学校 教務課長補佐		学校機能評価 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・毎年委員会終了後公開)

URL:<http://www.yic.ac.jp/ba/disclosure/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校の評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.yic.ac.jp/ba/disclosure/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 I Tエンジニア学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			I Tストラテジ & I Tマネジメント	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、ストラテジ・マネジメント分野に関する知識について学習する。	1前	60	2	○			○		○	○	
○			ソフトウェア	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、ソフトウェアに関する知識について学習する。	1前	60	2	○			○		○	○	
○			ネットワーク & セキュリティ	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、ネットワークとセキュリティに関する知識について学習する。	1後	60	2	○			○		○	○	
○			ハードウェア	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、ハードウェアに関する知識について学習する。	1前	60	2	○			○		○	○	
○			業務知識・業務分析	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、財務・会計・人事・販売・物流などに関する知識と統計分析について学習する。	2前	60	2	○			○		○	○	
○			C言語	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、C言語の文法を学び、構造化プログラミングを習得する。	1前	60	2	○	○		○		○		
○			アルゴリズム・システム設計	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、アルゴリズムについて学習する。また、変数トレースや処理の可視化といった技法を習得する。	1前	60	2	○	○		○		○		
○			オブジェクト指向設計	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、オブジェクト指向の基本とUMLの文法、デザインパターンを学習する。	2前	60	2	○	○		○		○		
○			オブジェクト指向言語 I	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、J a v aの文法を学び、オブジェクト指向プログラミングを習得する	2前	60	2	○	○		○		○		
○			オブジェクト指向言語 II	センサやGPS、ネットワークを活用したA n d r o i dアプリのプログラミング演習を行う。	2後	60	2	○	○		○		○		
○			Windowsプログラミング	WindowsAPIを活用したGUIアプリのプログラミング演習を行う。	2後	60	2	○	○		○		○		
○			Web基礎	ホームページの作成・更新・管理の方法を学習し、HTML、CSS、j a v a s c r i p tの演習を行う。	2前	60	2	○	○		○		○		
○			データベース	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、D M Lとデータベース運用について学習する。	1後	60	2	○			○		○	○	

○		データベース マネージメン トシステム I	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、D DLとデータベース構築について学習する。	2 前	60	2	○		○	○								
○		L i n u x サーバ構築 I	ファイルサーバの構築を目指し、Linux環境上でのインストールと設定について演習する。	1 後	60	2	○	○		○	○							
○		L i n u x サーバ構築 II	メールやWeb、DB等のサーバを、セキュリ ティを考慮しながら構築するための演習を行 う。	2 前	60	2	○	○		○	○							
○		進級制作 I	作品作成を通じて、実践的なソフトウェア開発 プロセスを経験し、企画・要件定義の重要性を 学習する。	1 後	90	3	○	○		○	○	○	○					○
○		卒業制作 I	作品作成を通じて、大人数でのソフトウェア開 発に必要な力を身につける。	2 後	90	3	○	○		○	○	○	○					○
○		資格対策 I	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、苦 手分野や弱点分野を克服する。	1 通年	60	2	○			○		○	○					
○		資格対策 II	I T S Sレベル3までの資格合格を目指し、苦 手分野や弱点分野を克服する。	2 通年	60	2	○			○		○	○					
○		文書処理 I	ワープロ3級以上の取得を目指し、表を含むビジ ネス文書を体裁よくできるように演習を行う。	1 後	90	3			○	○		○	○					
○		表計算処理 I	表計算3級以上の取得を目指し、関数の使い方と グラフ作成方法について演習を行う。	1 前	90	3			○	○		○	○					
○		プレゼンテー ション I	パワーポイントの基本操作方法を習得し、プレ ゼンテーションの基本について学習する。	1 後	30	1			○	○		○	○					
○		ビ ジ ネ ス マ ナー I	挨拶やお辞儀の仕方、言葉遣いなどの、社会人 としての基本的なマナーと、電話対応や訪問の マナーなどについて学びロールプレイングを行 う。	1 通年	60	2	○			○		○	○					○
○		文書処理 II	マクロプログラミングを学習し、ワープロアプリ を用いた業務の自動化について演習をする。	2 後	90	3			○	○		○	○					
○		表計算処理 II	マクロプログラミングを学習し、表計算アプリ を用いた業務の自動化について演習をする。	2 後	90	3			○	○		○	○					
○		プレゼンテー ション II	マルチメディアを活用したプレゼンテーション 技法を学習し、プロジェクションマッピングな どの演習を行う。	2 後	30	1			○	○		○	○					
○		ビ ジ ネ ス マ ナー II	職場でのコミュニケーションの取り方、指示の 受け方など、社会人の準備として必要な知識を 学ぶ。	2 通年	60	2	○			○		○	○					○
○		イン タ ー ン シップ I	職業意識を涵養し、礼儀作法、社会性を身につ ける	1 後	30	1				○		○	○					○

○		パーソナルスキルⅠ	IT関連の仕事と職業について学び2年間の学習目標を立てる。また、自分の強みと弱み、どのような価値観を持っているかなど、自己理解をするためのグループワークを行う。	1 通年	30	1		○	○	○				
○		パーソナルスキルⅡ	就職活動に向けての履歴書作成指導と面接指導を行う。	2 前	30	1		○	○	○				
		合計		31科目	単位時間(63単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 63単位		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。